

令和 8 年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実を図り、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力 (パフォーマンステスト含む)
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用 (AIを除く)
 ☐ その他

1. 目標に対する現状

①言語活動の充実

○広島県児童生徒学習意識等調査の結果から、「英語でやり取りや発表をする時には、自分の考えや気持ちなどを伝えている。」

(R6:72.2%⇒R7:74%) について改善が見られる。

○英語専科指導教員アンケートの結果から、「言語活動を行う際には、目的・場面・状況を設定している。」

(R6:93.8%⇒R7:100%) について改善が見られる。

②ALTの参画

○広島県児童生徒学習意識等調査の結果から、「外国人と積極的にコミュニケーションを図ることは大切です。」

(R6:71.7%⇒R7:82.8%) に改善が見られる。

①言語活動の充実

○言語活動を通じた指導を行う際、領域によって、偏りがある教員もいる。

2. 要因分析

①言語活動の充実

○英語専科指導教員研修において、言語活動を中心とした指導案作成や模擬授業を実施したり、英語教育研究校の実践を紹介したりしたことにより、研修で学んだことを実践した教員が増え、授業改善につながると考えられる。

○1年を通して、「書くこと」の言語活動を通じた授業づくりについて研修を行ったため、「話すこと」と「書くこと」の統合的な指導を意識して行う教員が増えた。

②ALTの参画

○外国語科授業モデル及びALT活用事例集を全校に周知したことによって、各学校に応じて事例集を参考にALTの活用が進んだことが考えられる。

①言語活動の充実

○4技能5領域の指導に関する理解や技能に差があることから、特定領域に偏った指導が生じ、結果として言語活動の質や量にばらつきが見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①【英語専科指導教員研修】(広島市教育委員会)

○4技能5領域を取り入れた言語活動の授業づくりについて研修を行う。

○授業づくりのアイデアや困り感等について、交流する時間を確保することで、英語専科指導教員の横のつながりを深める。

○「言語活動」の充実に向けた授業づくりが実施されているか、英語専科指導教員対象の質問調査から検証する。

(主な研修内容予定)

・コミュニケーションを行う「目的・場面・状況」に着目した授業改善について

・指導案作成及び模擬授業等

①②①【教師の学び「プラス1」など】(広島市教育センター)

○希望者対象に、放課後30分程度、オンラインで、外国語活動及び外国語科の授業づくりの演習や参加者同士の情報交換等を行う。

(R7年度実施) ・やってみよう！を引き出す英語授業へ

・こどもの心を動かすクラスルームイングリッシュ×言語活動

①②①【英語教育推進研究校】

○ALTの活用や言語活動に関する児童質問調査から実態把握し、次年度の研修内容を検討する。

○小・中学校の英語推進リーダーが連携を図りながら、実践的な指導法の取組や成果を、研修会で紹介する。



【小学校英語専科指導教員に係る加配定数の活用】

○令和7年度、本市においては、小学校英語専科指導教員90名(小学校教諭(本務):5名、常勤:29名、非常勤:54名、中学校教諭(本務):2名)を複数校兼務させ、全小学校(139校※)に加配定数として配置している。(※1校5・6年の在籍がないため配置無)

○また、一定の英語力を有する新規採用者確保のため、教員採用試験の筆記試験において、加点制度を設けている。

令和 8 年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

○「CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合（R7：57.1%⇒R8：60.0%）

□ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 ☒ ALTの参画 □ ICTの活用 ☒ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力

R7英語教育実施状況調査によると、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合は、57.1%（昨年度比+0.4）であり、改善が見られた。

②言語活動の充実

R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語を聞いて概要や要点を捉える活動が行われている」（R5:79.2%⇒R6:81.7%）と「英語を読んで概要や要点を捉える活動が行われていた」（R5:80.8%⇒R6:84.3%）について改善が見られる。

①生徒の英語力

R7英語教育実施状況調査によると、CEFR A1 レベル相当以上を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合は、57.1%であり、目標である60%を下回っている。

②話すこと[やり取り]の言語活動

R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われている」に課題が見られる。（広島市65.9% / 全国68.8%）

2. 要因分析

①②英語教育実践研究校での取組の成果を公開研究会等で普及するとともに、本市教育センターと連携し、英語指導助手（ALT）が効果的に参画した言語活動の充実に係る研修を実施した。その結果、英語担当教員の指導法や言語活動に対する理解が深まり、授業改善が進んでいると考えられる。

①②全ての中学校で英検IBA(聞くこと・読むこと)を実施し、客観的に生徒の英語力を把握することにより、英語担当教員が課題を具体的に捉え、共通理解を図りながら、授業改善を進めたと考えられる。

①語彙や文法事項など、知識・技能の定着に課題があると考えられる。また、これらの知識・技能を単元全体の中で、どの場面で活用・定着させるかという視点で単元に計画的に位置付けた指導が十分でないと考えられる。

②話すこと[やり取り]については、効果的な指導方法に対する理解が十分でなく、会話の型の再現にとどまる指導が見られる。また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた言語活動を、単元に基づいて適切に設定することが十分でないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②【学力向上推進事業】

○英語教育推進研究校において、ALTとの協働やAIの活用を基軸として、発信を主とした実践研究を行い、その成果を全ての中学校に普及する。

英語教育推進研究校	広島市立瀬野川中学校
	広島市立城南中学校
	広島市立祇園東中学校

○学力向上重点指定校における基礎学力の定着に効果的な個に応じたきめ細やかな指導法（AIの活用を含む）に係る実践研究を推進し、その成果を全ての中学校に普及する。

学力重点指定校	広島市立清和中学校
---------	-----------

①②①②【中学校英語指導助手（ALT）担当者研修】

○本市教育センターと連携し、英語指導助手（ALT）との協働を通して、生徒の発信力を引き出す言語活動や効果的なフィードバックを取り入れた授業づくりを行い、教師の実践的指導力の向上を図る。あわせて、昨年度から研修日数を2日から3日に増加させ、有識者による指導助言も踏まえ、より充実した実践研修を実施する。

回	内容
第1日	・ 英語指導助手（ALT）との協働の課題と改善策、授業計画立案
第2日	・ 生徒の発信力を引き出す言語活動の設計 ・ 英語指導助手（ALT）との協働による指導
第3日	・ 知識・技能を統合して活用させる「資質・能力の構造化」に基づいた評価と授業改善

①②【英語を使う場の多様化】

○英語によるコミュニケーション能力の向上及び学習意欲の向上を図るとともに、実践的な英語使用や異文化理解の機会をより多くの生徒に提供するため、E-Camp Hiroshimaの参加者数を拡大して実施する。（R7:36名⇒R8:48名）

①②①【外部試験を活用した生徒の英語力の把握】

○全学年生徒を対象に英検IBAを実施することで、生徒の英語力を客観的に把握するとともに、実態把握に基づく授業改善を図る。



未だ改善が必要な点

令和 8 年度 広島市 英語教育改善プラン

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

- 「CEFR A2 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合 (R7: 66.6% ⇒ R8: 70.0%)
- 「CEFR B1 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合 (R7: 31.7% ⇒ R8: 35.0%)

目標

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語力

・CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が、全国平均を上回っている。
(R7全国 : 52.4%、R7本市 : 66.6%)
・CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が、全国平均を上回っている。
(R7全国 : 23.9%、R7本市 : 31.7%)

未だ改善が必要な点

①言語活動の割合

英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合が低下している。
(R6本市 : 68.6% → R7本市 : 65.7%)

②ICT機器の活用

遠隔地の人物等と英語で交流する活動を実施した学校の割合は、全国平均を上回っているものの、依然として低い数値である。
(R7全国 : 26.7%、R7本市 : 28.6%)

2. 要因分析

①英語指導助手（ALT）の参画

全ての学校において、授業だけでなく授業外での活動も実施されており、ALTの参画に関する理解が深まっている。

①生徒の英語力

・CEFRを指標とした評価について、英語担当教員の理解が深まり、生徒のコミュニケーション能力を適切に測定できるようになっている。

①言語活動の割合

言語活動の必要性について英語担当教員の理解は進んでいるものの、単元の目標に言語活動が適切に設定されていないため、授業における英語での発話が減少していると考えられる。

②ICT機器の活用

端末や通信環境の整備は進んでいるものの、オンライン英会話やAIを活用した英語学習等に関する理解が乏しく、また予算面での課題も存在する。

3. 目標を達成するための施策・事業

①英語指導助手（ALT）の全校配置

英語指導助手（ALT）を各市立高等学校・中等教育学校に配置し、引き続き効果的な活用を行う。令和8年度も授業外での活用を促進し、生徒の英語力のさらなる向上につなげる。

①英語教育研究校による実践研究

ALTの複数配置、授業外でのALT活用、平和ガイドボランティア、英語多読、海外修学旅行、オンライン英会話プログラム、定期的なアンケートやインタビューテストを引き続き実施する。

①留学支援

広島市高校生短期留学プログラムを引き続き実施し、グローバルに活躍することが期待される生徒層の拡充を図る。

①言語活動の割合【新規】

これまでの年2回の英語担当教員対象研修を見直し、市立高等学校・中等教育学校8校が最大年8回の相互授業観察等を行う体制とする。各校の課題及び目標を共有しながら、広島市全体の指導力向上を図り、言語活動を通した英語学習が実施されるよう指導・助言を行う。

②ICT機器の活用

英語教育研究校においてオンライン英会話プログラムの実践研究を引き続き実施し、その成果を他の市立高等学校に普及する。



広島市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		70.0%	67.8%	70.0%	67.9%	70.0%	66.6%	70.0%		70.0%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		40.0%	30.2%	32.5%	34.9%	35.0%	31.7%	35.0%		35.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100.0%	97.1%	100.0%	82.9%	100.0%		100.0%		100.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100.0%	85.3%	100.0%	51.4%	100.0%		100.0%		100.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80.0%	92.0%	92.0%	87.8%	92.0%	97.9%	92.0%		92.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100.0%	70.6%	72.5%	68.6%	72.5%	65.7%	72.5%		72.5%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60.0%	57.3%	60.0%	56.7%	60.0%	57.1%	60.0%		60.0%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100.0%	75.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100.0%	99.5%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握（％）	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		60.0%	63.2%	60.0%	62.0%	60.0%	64.9%	60.0%		60.0%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100.0%	75%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	98.6%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	99.3%	100%		100%		100%		100%	